

新型コロナウイルスの影響で人々の生活も一変し、あらゆる業種が苦しい経営状況を強いられている中、当寺院の行事や法事も中止が続きかなり厳しい状態が生じております。しかしそういった中でも、少数ながらもなんとか法事を行っていたきたいとご相談される方々の対応させていただきますと、有難さと同時にこの時期に改めて人間の価値観とは何かということを考えさせられます。

いま世間で最も求められていることとは新型コロナウイルス感染拡大が治まり早く国民一人一人に正常な生活が戻るということでしょうが、上記のこの時期に法事を希望される方が故人を偲ぶ心には、正常な生活に戻ることと同じぐらいに宗教的価値観を感じていらっしゃるように思えます。

今までお寺の活動をさせていただき常々に考えていたことですが、お寺離れ、宗教離れが進む現代、人々の一番の価値とはなんであるのか？ということでしたが、今回の新型コロナウイルスの状況がそのこたえを具体化しているように思われます。それは現代人の価値観の中

心には健康とお金ということがあるという現実です。新型コロナウイルスはこの健康とお金を混乱させておりその結果世界中が停滞しております。今日の当たり前にしている状況はまさにそのことを問われているように思えます。

この騒動はいずれはワクチンの開発等により終息するかと思いますが、しかし、ここで重要なことは健康とお金という価値観だけにとらわれていると、もし今後この状態が予想外に伸び数年続いたと想定したらなら、多くの人々のこころの悲鳴は計り知れぬものになりそれが爆発するとき、予想もつかない混乱が訪れるのではないかと恐怖心さへ感じます。そこで、その計り知れない心の悲鳴がどこから来るのか？ その悲鳴の本当の解決とは何か？ 実はそれを教えてくれるのが仏教の目的だったのです。私たちは浄土真宗にその答えを聞いていきます。

仏教ではすべての問題の解決を「悟り」ということばに求めてゆきます。悟りの境地にはあらゆる表現がありますが、ここでは「^{いちによ}一如」という言葉に沿っていきま

すと、この言葉の意味するところはすべてのことと自由に一つになれるということです。悟りの境地とはすべてと一体の心をになり同時に苦しみが無いということです。残念ながらそのような高いレベルである悟りは、現代ではどのようなことをしても体感できるものは存在しないといわれておりますが、浄土真宗では阿弥陀仏の救いの中にその意味を味わうことができます。この「味わう」という言葉は浄土真宗の教えを聞くときよく耳にします。味わうということは、阿弥陀仏のお慈悲を味わうことでもあります。それは、お救いを歓ぶという意味があります。阿弥陀仏のお救いは、南無阿弥陀仏一つで真実なる価値というものを教える力のことを言います。その価値とは南無阿弥陀仏というお力でこの命尽きたときまさしく一如なる浄土に必ず生まれさせ必ず悟りの境地を約束する真実の価値です。今、新型コロナの問題で思いどおりにならずもがくこの私たちにこのお救いは本当の価値観を教え、よりどころとなってくださいます。 合掌

《行事案内》

5月9日（土）写経法話会・・・中止

5月16日（土）宗祖降誕会法要・・・中止

6月9日（火）写経法話会・・・開催予定

6月末頃 薩摩のかくれ念仏勉強会・・・開催予定

※残念ですが、現状を考慮し5月の行事は中止させていただきます。

《お知らせ》

本年度から「妙蓮寺門信徒会」という名称を「妙蓮寺クラブ」と変更いたしました。理由として「門信徒会」＝「檀家として縛られるのでは」という感じが起こるようですので趣旨をご理解しやすいように「クラブ」という名称にしました。端的な特徴は「寺の活動に賛同する人々のつながりの会」で入退会自由です。ご入会された方には築地本願寺情報雑誌の毎月無料配布、法語カレンダー配布、終末活動に関するサポート、交流会、式章・聖典の贈呈などさせていただきます。

新型コロナウイルスの影響がありますので詳細は5月下旬頃送付させていただきます。

《お願い》

今後、できる範囲内でメールのご案内に切り替えたいと考えております。ご希望の方は、ネットにて<http://www.harikyutomooka.sakura.ne.jp> または【江戸川布教所妙蓮寺】とご検索の後、「問い合わせフォーム」から「件名：メール連絡希望」とご返信下さい。その際、お名前・メールアドレス・ご住所は忘れずにご記入願います。尚、不慣れなものですので、うまくつながらない場合従来通り封筒にて送付させていただきますことどうぞご了承ください。

それではどうぞ皆様、くれぐれも手洗いうがいにご留意されご自愛専一にてお過ごしください。 合掌

令和2年5月1日 妙蓮寺住職

◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇

●3・4月の妙蓮寺●



3月、新中川土手が緑色に変わってくると、妙蓮寺周辺でも桜、サツキ、ハナミズキと競うように木々草花が花を開き、楽しませてくれております。今回思いがけず家族だけのお彼岸、お花まつりとなりましたが、9年前、お参りの方もなかった布教所スタート時を思い出し、懐かしいお勤めとなりました。（坊守）